

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《外国語(英語)》

※詳細については、資料Ⅱ(英語-7～英語-17)を参照

発行者の略称	東書	書名	NEW HORIZON English Course 3
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、文法事項を使い方と形の両面から整理した『Grammar for Communication』などが掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、まとまった文章を概要把握、詳細理解、自己表現の3段階で読み取る『Read and Think』などが掲載されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、自分の楽しみとして英語を読む『プレジャー・リーディング』などを取り上げた『学び方コーナー』などが掲載されている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「人権教育」について、差別に対して非暴力で立ち向かったガンディーを取り上げた『A Legacy for Peace』などが掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「国際化」について、国際協力のキャンペーンによる国境を越えた助け合いを取り上げた『Beyond Borders』などが掲載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、井戸掘りの国際協力ボランティアを取り上げた『Think Globally, Act Locally』などが掲載されている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、各Unitの最初に『GOAL』として目標が示され、最後に『CHECK』としてその目標を達成したかどうかの振り返りが示されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、技術・家庭科(家庭分野)と関連して、食品表示を取り上げた『Learning HOME ECONOMICS in English』などが掲載されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、コミュニケーションを図るうえで、相手のもっている知識に合わせて話したり書いたりする配慮を示した『Point of View』が掲載されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、日本の伝統工芸である陶芸や伝統文化である落語に取り組む外国人を取り上げた『Foreign Artists in Japan』などが掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、スクールキャンプなどの体験を振り返る活動を取り上げた『My Favorite Event This Year』などが掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、小学校の既習事項を確認するページがある。高校への接続については、即興的な対話につながる課題を取り上げた『Plus One』などが掲載されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、ニュージーランドの姉妹校とインターネット電話をする場面を取り上げた『Friends in New Zealand』などが掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、領域ごとの活動内容を説明する動物キャラクターが設定され、その吹き出しで活動のヒントが掲載されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> be動詞と一般動詞を並列に導入し、リスニングから始め、領域統合型の活動へと段階的に設定されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 言語の使用場面や言語の働きについて、地域のおすすめの場所を紹介する場面を取り上げた『My Favorite Place in Our Town』などが掲載されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 小学校と関連した構成について、小学校の既習事項を確認するページがあり、聞くことから導入されている。全編を通し、小学校の既習事項が『小』のアイコンで明示されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 国際理解を深めることについて、オーストラリアやイタリアなどの世界遺産を取り上げた『World Heritage Sites』などが掲載されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 中心となる単元名を『Unit』と表記し、第1学年は『Unit 0～11』、第2学年は『Unit 0～7』、第3学年は『Unit 0～6』で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はA4判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『全ての生徒の色覚特性に適応するようにデザインしています。』『特別支援教育の観点から、読みやすさと書きやすさを追求した欧文用ユニバーサルデザインフォントを一部に採用しています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。</p>		

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《外国語(英語)》

※詳細については、資料Ⅱ(英語-7～英語-17)を参照

発行者の略称	開隆堂	書名	SUNSHINE ENGLISH COURSE 3
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○ 「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、場面から新出文法事項をマンガ形式の短い対話で示した『Scenes』などが掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、教科書本文の情報から答えを自由に推測する問いを示す『?』のアイコンなどが掲載されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、辞書の使い方を各学年の冒頭で3回に分けて取り上げた『辞書を使いこなそう』などが掲載されている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「人権教育」について、アメリカや南アフリカにおける人種差別反対運動を取り上げた『Live Life in True Harmony』などが掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「国際化」について、国内外の路上の屋台で食べられているもののことを取り上げた『Taste of Culture』などが掲載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、登校中の『子ども安全パトロール』を取り上げた『Junior Safety Patrol』などが掲載されている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、領域別の目標を自己評価する『英語で「できるようになったこと」リスト』などが掲載されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、保健体育科と関連して、睡眠時間と健康の関係を取り上げた『Good Night. Sleep Tight.』などが掲載されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、導入・展開・まとめの順で話を構成することなどを示した『話の組み立て方を考えよう』などが掲載されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、大掃除やおせち料理といった日本の年末年始の風習に外国人一家が取り組む様子を取り上げた『The Year-End Events』などが掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、ハンバーガーショップでの注文を通した役割演技を取り上げた『ハンバーガーショップへ行こう』などが掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、小学校の既習事項を確認するページがある。高校への接続については、1,000語超の物語文を取り上げた『Further Reading』などが掲載されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、AI技術の可能性と今後の課題点などを取り上げた『Is AI a Friend or an Enemy?』などが掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、表面にイラスト・裏面に関連する英語を記した『アクションカード』などが用意されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> be動詞と一般動詞が段階的に導入され、題材への興味付けから始め、領域統合型の活動へと段階的に設定されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 言語の使用場面や言語の働きについて、他人にあまり知られていない自分のことを伝える自己紹介活動の場面を取り上げた『あなたの知らない私』などが掲載されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 小学校と関連した構成について、小学校の既習事項を確認するページがあり、小学校で学んだ表現などが扱われている。全編を通し、場面シラバスから導入されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 国際理解を深めることについて、エルトゥールル号の人命救助活動から始まったトルコと日本の友好関係を取り上げた『Friendship beyond Time and Borders』などが掲載されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 中心となる単元名を『Program』と表記し、第1学年は『Program 1～10』、第2学年は『Program 1～8』、第3学年は『Program 1～7』で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はAB判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『カラーユニバーサル視点から、色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの生徒が見やすくなるように配慮をしています。』『特別支援教育の視点から、書かれている内容が読み取りやすくなるように配慮をしています。』と表記されている。</p>		

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《外国語(英語)》

※詳細については、資料Ⅱ(英語-7～英語-17)を参照

発行者の略称	三省堂	書名	NEW CROWN English Series 3
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○ 「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、文の仕組みなどを考える問いとともに新出文法事項を示した『POINT』などが掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、聞き取ったことをもとに自分の意見の発信につなげる『Take Action! Listen』などが掲載されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、英語に触れる手立てとして、英語で映画や音楽を聞くことなどを取り上げた『For Self-study』などが掲載されている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「人権教育」について、公民権運動に関するローザ・パークスやマーチン・ルーサー・キング・ジュニアの活動を取り上げた『I Have a Dream』などが掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「国際化」について、留学生が参加するイングリッシュキャンプでの体験を取り上げた『English Camp』などが掲載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、富士山の登山道の美化活動などを取り上げた『Green Festival』などが掲載されている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、教科書内で扱った主なパートの振り返り箇所を示した『What Can I Do?』などが掲載されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、理科と関連して、霧の発生の仕組みを取り上げた『Every Drop Counts』などが掲載されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、ディスカッションで意見をまとめ、参加者全員が役割を意識することなどを示した『ディスカッションをしよう』などが掲載されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、フランスで行われたマンガやアニメなどを紹介するイベントでの体験などを取り上げた『The World's Manga and Anime』などが掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、広島への修学旅行を通した平和体験学習を取り上げた『The Story of Sadako』などが掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、小学校の既習事項を確認するページがある。高校への接続については、自分から英語に触れる手立てを示した『For Self-study』などが掲載されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、イベントの募集案内からアピールする内容を考えて発表する活動を取り上げた『国際交流イベントに出展しよう』などが掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、聞き取り教材『Take Action! Listen』で扱われた英文の原稿『Audio Scripts』などが掲載されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> be動詞と一般動詞が並列に導入され、内容への動機付けから始め、領域統合型の活動へと段階的に設定されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 言語の使用場面や言語の働きについて、将来の夢がテーマのスピーチコンテストで発表する場面を取り上げた『将来の夢を紹介しよう』などが掲載されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 小学校と関連した構成について、小学校の既習事項を確認するページがあり、小学校での文構造などが整理されている。小学校の既習語から発信語彙が抽出され、再掲されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 国際理解を深めることについて、オーストラリアの世界遺産ウルルと先住民族の歴史を取り上げた『Uluru』などが掲載されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 中心となる単元名を『Lesson』と表記し、第1学年は『Lesson 1～8』、第2学年は『Lesson 1～7』、第3学年は『Lesson 1～7』で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はAB判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『この教科書はユニバーサルデザインに配慮しています。』『カラーユニバーサルデザインに配慮して編集しています。』『見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。</p>		

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《外国語(英語)》

※詳細については、資料Ⅱ(英語-7～英語-17)を参照

発行者の略称	教出	書名	ONE WORLD English Course 3
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連			<p>○ 「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、文法事項をまとめた文脈の中で示してから整理した『Grammar』などが掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、教科書本文とは異なる場面の英語を聞いてその内容について表現する『Task』などが掲載されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、家庭学習による復習の仕方、授業以外での英語力の高め方などを取り上げた『How to Study』などが掲載されている。</p>
2 かながわ教育ビジョンとの関連			<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「人権教育」について、貧困や強制労働に苦しむ子どもたちのことを知り、12歳で行動を起こした少年の活動を取り上げた『Free the Children』などが掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「国際化」について、NFL(全米フットボール連盟)の日本人トレーナーなどを取り上げた『Sports Legends』などが掲載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、北海道の旭山動物園での取組を取り上げた『Holiday in Hokkaido』などが掲載されている。</p>
3 内容と構成			<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、領域別の目標を顔のアイコンで自己評価する『Can-Do自己チェックリスト』などが掲載されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、社会科(地理分野)と関連して、北海道の自然環境を取り上げた『Holiday in Hokkaido』などが掲載されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、代名詞に注意して読み、文章を正しく読み取ることを示した『Tips for Reading』などが掲載されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、先祖を弔う海外の風習と日本の盆踊りとの類似点や相違点を取り上げた『How to Celebrate Halloween』などが掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、ビデオ通話で、海外の中学生と交流する場面を取り上げた『School Life in Two Countries』などが掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、小学校の既習事項を確認するページがある。高校への接続については、4つの読み物教材を取り上げた『Further Reading』などが掲載されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、インターネットのブログとそれについてのメッセージのやり取りの場面などを取り上げた『Our Summer Stories』などが掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、教科書内に朱書きされた内容を隠すマスキングシートなどが用意されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> be動詞と一般動詞が並列に導入され、領域統合型の活動へと段階的に設定されるとともに、並行してチャット活動などが設定されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 言語の使用場面や言語の働きについて、紹介したい日本の文化の一つを選んで発表する場面を取り上げた『日本の文化を紹介しよう!』などが掲載されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 小学校と関連した構成について、小学校の既習事項を確認するページがあり、イラストやゲームでの復習場面が設定されている。小学校で扱ったコミュニケーション活動が扱われている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 国際理解を深めることについて、世界に広がる地球温暖化やゴミ処理問題などの環境問題を取り上げた『Helping the Planet』などが掲載されている。</p>
4 分量・装丁表記等			<p>⑲ <input type="checkbox"/> 中心となる単元名を『Lesson』と表記し、第1学年は『Lesson 1～9』、第2学年は『Lesson 1～9』、第3学年は『Lesson 1～7』で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はAB判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを使用しています。』と表記されている。</p>

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名 ≪外国語(英語)≫

※詳細については、資料Ⅱ(英語-7～英語-17)を参照

発行者の略称	光村	書名	Here We Go! ENGLISH COURSE 3
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○ 「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、新出文法事項が使われた箇所などを教科書本文に戻って再びチェックする『Grammar Hunt』などが掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、モデルの文章を読んでそれに近いテーマで自己表現をする『Goal』などが掲載されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、将来に向けて、どのように英語を学び続けていくかなどを取り上げた『Your Coach』などが掲載されている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「人権教育」について、世界の現状や社会問題を『100人の村』に例え、全ての人が平等に扱われていない実態を取り上げた『How Do We Live?』などが掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「国際化」について、大阪で包丁専門店を営むカナダ人を取り上げた『世界を舞台に働く人』などが掲載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、海岸を掃除する活動について書かれたポスターの情報を読み取る活動を取り上げた『ポスター』などが掲載されている。</p>		
3 内容と構成	<p>≪教科・種目共通の観点≫</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、巻末の『CAN-DO List』と連動した目標を振り返るチェック項目を示した『ふり返り』などが掲載されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、理科と関連して、絶滅危惧種の現状とその原因を取り上げた『Living With Animals』などが掲載されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、自己表現を読み取る目的を示した『自己紹介で共通点・相違点を見つけよう』などが掲載されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、海外で広がる絵文字文化などを取り上げた『Emojis - From Japan to the World』が掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、小学校や水族館での職場体験の様子を取り上げた『Work Experience』などが掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、小学校の既習事項を確認するページがある。高校への接続については、英語学習を続けていく手立てを示した『Your Coach』が掲載されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、AI技術による翻訳機が存在が外国語の習得に与える影響などを取り上げた『AI Technology and Language』などが掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、他ページと比べて紙質や大きさを変えた帯教材『Let's Talk!』などが掲載されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> be動詞と一般動詞が並列に導入され、領域統合型の活動へと段階的に設定されるとともに、並行してリテリング活動などが設定されている。</p> <p>≪各教科・種目別の観点≫(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 言語の使用場面や言語の働きについて、ウェブサイトの掲示板の内容を参考に議論に参加する場面を取り上げた『学校に必要なものを考えて意見を伝えよう』などが掲載されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 小学校と関連した構成について、小学校の既習事項を確認するページがあり、聞く、話す、書くの順に活動が設定されている。帯活動で発音とつづりのルールを学ぶ教材が扱われている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 国際理解を深めることについて、アラブ首長国連邦・イギリス・ルワンダのそれぞれの中学校生活を取り上げた『School Life Around the World』が掲載されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 中心となる単元名を『Unit』と表記し、第1学年は『Unit 1～8』、第2学年は『Unit 1～8』、第3学年は『Unit 1～8』で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はAB判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『カラーユニバーサルデザインや特別支援教育の観点から、全てのページについて専門家による校閲を行っています。』『生徒の学習負担を軽減できるよう、小学校との接続期の英文には、書き文字との差異が少ない書体を独自に開発し、使用しています。』『日本語の文のうち、ふきだし内などの小さな文字には、見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザイン書体を採用しています。』と表記されている。</p>		

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《外国語(英語)》

※詳細については、資料Ⅱ(英語-7～英語-17)を参照

発行者の略称	啓林館	書名	BLUE SKY English Course 3
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○ 「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、新出文法事項の注目すべき箇所がマーカーや太字などで示された『Targetのまとめ』などが掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、3つのステップでミニスピーチを作成する『Express Yourself』などが掲載されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、各Unitで扱われたテーマに関連した追加情報を取り上げた『More Information』などが掲載されている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「人権教育」について、『みんなにやさしい社会』に役立っていることを取り上げた『Society for All』などが掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「国際化」について、海外からの転校生とふだんすることや好きなことについてのやり取りを取り上げた『海外からの転校生』などが掲載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、「ゆるキャラ」を通じた地域の活性化などを取り上げた『Lively Towns in Japan』などが掲載されている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、まとまった文章を読み取り、内容に関連した自分の意見や考えを述べる『Read &amp; Think』などが掲載されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、数学科と関連して、英語の物語として扱われた数学パズルを取り上げた『River Crossing Puzzle』などが掲載されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、テーマに合うスピーチを段階に沿って作成し、発表する構成の『Express Yourself』などが掲載されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、秋田竿灯祭りや長岡花火大会ができた背景などを取り上げた『Festivals Have Meanings』などが掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、遠足で訪れた美術館で「だまし絵」を見る場面を取り上げた『美術館で』が掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、小学校の既習事項を確認するページがある。高校への接続については、ディスカッションや長文の作文を取り上げた『Further Study』が掲載されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、海外の学校のホームページの情報をヒントに自分の学校の紹介文を発表する活動を取り上げた『学校を紹介しよう』などが掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、各Unitで扱われたテーマに関する日本語コラム『More Information』などが掲載されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> be動詞と一般動詞が段階的に導入され、目標の確認から始め、領域統合型の活動へと段階的に設定されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 言語の使用場面や言語の働きについて、有名人や歴史上の人物などに架空のインタビューをする場面を取り上げた『有名人にインタビューしよう』などが掲載されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 小学校と関連した構成について、小学校の既習事項を確認するページがあり、耳から学習した英語を文字と結び付ける流れで構成され、他ページと比べイラストが大きく使用されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 国際理解を深めることについて、世界中で病気や災害に苦しむ子どもたちに折り紙を教えた盲目の日本人を取り上げた『Origami Ambassador』などが掲載されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 中心となる単元名を『Unit』と表記し、第1学年は『Unit 1～10』、第2学年は『Unit 1～8』、第3学年は『Unit 1～6』で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はAB判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『個人の特性にかかわらず、内容が伝わりやすい配色・デザインを用いました。』『メディア・ユニバーサル・デザイン協会の認証を申請中です。』と表記されている。</p>		

【資料Ⅱ】

教科種目名《外国語(英語)》

1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連

① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮	
東書	「知識・技能」の習得について、教科書本文内容の導入後、新出文法事項が示され、その英文の仕組みについて説明が添えられている。続いて、文型練習の『Practice』、技能別の練習の『Mini Activity』が設定されている。ある程度の活動が終わった後、文法事項のまとめの『Grammar for Communication』で、扱われた表現が使い方と形の両面から整理され、実際にそれらを使用する活動が設定されている。
開隆堂	「知識・技能」の習得について、教科書本文内容に触れる前に、マンガ形式の短い対話の『Scenes』で、場面から新出文法事項が示されている。続いて、それに関連した聞く活動、表現の練習が設定されている。ある程度の活動が終わった後、文法事項のまとめの『英語のしくみ』で、扱われた表現の注目すべき箇所がマーカーや太字などで示され、吹き出しで追加のヒントがキャラクターのセリフとして述べられている。
三省堂	「知識・技能」の習得について、教科書本文内容の導入後、『POINT』で新出文法事項が示されるが、最初はそれについての直接的な解説はされず、文の仕組みなどを考える問いが設けられている。続いて、文型練習の『Drill』、聞く活動、話すことと書くことを結びつけた活動が設定されている。ある程度の活動が終わった後、『文法のまとめ』で、扱われた表現について説明やヒントなどが示されている。
教出	「知識・技能」の習得について、教科書本文内容の導入後、新出文法事項が示され、その英文の仕組みについて説明が添えられている。続いて、文型練習、聞く活動、『Think & Try!』で自分で考える文を含んだ表現の練習が設定されている。ある程度の活動が終わった後、文法事項のまとめの『Grammar』で、扱われた表現をまとめた文脈の中で示してから整理されている。その後、ペアでの会話練習が設定されている。
光村	「知識・技能」の習得について、教科書本文内容の導入後、本文内容に関連した聞く活動、話す活動、書く活動が設定されている。続いて新出文法事項が示され、説明が添えられている。ある程度の活動が終わった後、文法事項のまとめの『Active Grammar』で、扱われた表現がまとめた文脈の中で示されるとともに、それらの表現が使われた箇所などを教科書本文に戻って再びチェックする『Grammar Hunt』が設定されている。
啓林館	「知識・技能」の習得について、教科書本文内容の導入後、聞く活動が設定されている。続いて新出文法事項が示され、説明が添えられている。その後、文型練習、例にならって考える表現練習が設定されている。ある程度の活動が終わった後、文法事項のまとめの『Targetのまとめ』で、扱われた表現の注目すべき箇所がマーカーや太字などで示されるとともに、その表現を実際に使用する活動が設定されている。
② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮	
東書	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、複数の単元のまとめとして、領域統合型のプロジェクト活動『Stage Activity』で、『"All about Me" Poster (第1学年)』『Research and Presentation (第2学年)』『Let's Have a Mini Debate (第3学年)』などの活動が設定されている。これらの活動では、冒頭で活動の目標が明示され、アイコンとともに『目的・場面・状況』が明示され、互いに作ったポスターを読んで感想を伝え合ったり、クラスメイトに調査としてインタビューをしたり、立場に沿ったメモを作ったりすることなどが行われている。また、まとめた文章を概要把握、詳細理解、自己表現の3段階で読み取る『Read and Think』などの活動が設定されている。
開隆堂	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、複数の単元のまとめとして、領域統合型のプロジェクト活動『Our Project』で、『あなたの知らない私 (第1学年)』『「夢の旅」を企画しよう (第2学年)』『記者会見を開こう (第3学年)』などの活動が設定されている。これらの活動では、冒頭で活動の目標が明示され、マッピングで情報を整理したり、リハーサルで互いにアドバイスをし合ったり、原稿メモについてペアでアドバイスしたりすることなどが行われている。また、教科書本文の情報から答えを自由に推測する問い(推論発問)が、『Q&A』の中に『?』のアイコンで示されている。
三省堂	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、複数の単元のまとめとして、領域統合型のプロジェクト活動『Project』で、『理想のロボットを発表しよう (第1学年)』『修学旅行のプランを提案しよう (第2学年)』『ディスカッションをしよう (第3学年)』などの活動が設定されている。これらの活動では、冒頭で『何について』『何をやる』などの設定を生徒が書き込んで確認し、モデルとなる発表を聞いたり、ペアで提案内容を考えたり、参加者全員に役割を決めてディスカッションしたりすることなどが行われている。また、聞き取ったことをもとに自分の意見の発信につなげる『Take Action! Listen』などの活動が設定されている。
教出	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、複数の単元のまとめとして、領域統合型のプロジェクト活動『Project』で、『オリジナルの標識を考えて発表しよう! (第1学年)』『行ってみたい名所を紹介しよう! (第2学年)』『英語で卒業スピーチをしよう! (第3学年)』などの活動が設定されている。これらの活動では、タイトルと同一の活動目標が示され、モデル発表を聞いてメモを取ったり、アイデアのメモをもとに話す順番を決めたり、マッピングの手法で考えを整理したりすることなどが行われている。また、教科書本文とは異なる場面の英語を聞いてその内容について表現する『Task』などの活動が設定されている。
光村	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、複数の単元のまとめとして、領域統合型のプロジェクト活動『You Can Do It!』で、『「ドリームファミリー」を紹介しよう (第1学年)』『日本のおもしろいものを紹介しよう (第2学年)』『3年間を締めくくる言葉を考えよう (第3学年)』などの活動が設定されている。これらの活動では、冒頭で状況設定などが示され、グループ発表を聞き合ったり、代表を決めたり、ペアで紹介するものを決めたり、モデルとなる英語の詩から作成者の学校生活を想像したりすることなどが行われている。また、モデルの文章を読んでそれに近いテーマで自己表現をする『Goal』などの活動が設定されている。
啓林館	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、複数の単元のまとめとして、領域統合型のプロジェクト活動『Project』で、『日記を書こう (第1学年)』『あこがれの職業を発表しよう (第2学年)』『有名人にインタビューしよう (第3学年)』などの活動が設定されている。これらの活動では、段階的に手順が示され、よく使われる語句が紹介されたり、発表を聞いて相手に質問したり、モデル対話を聞いてわかったことをメモしたりすることなどが行われている。また、3つのステップでミニスピーチを作成する『Express Yourself』などの活動が設定されている。

③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	
東書	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、学び方のコツなどをまとめた『学び方コーナー』で、英語学習法として、自分の楽しみとして英語を読む『プレジャー・リーディング』などが紹介されている。辞書の使い方について、第1学年で2回に分けて紹介されている。追加の表現をまとめた一覧『Word Room』が、関連したイラストなどとともに、プロジェクト活動の次のページ以降や巻末に掲載されている。
開隆堂	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、学び方のコツなどをまとめた『Steps』で、相手にわかりやすい説明をするコツなどが紹介されている。辞書の使い方について、各学年の冒頭で3回に分けて『辞書を使いこなそう』などで紹介されている。追加の表現をまとめた一覧『Word Web』が、コーナーとして設けられるとともに、巻末資料に場面別の表現などが掲載されている。
三省堂	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、学び方のコツなどをまとめた『For Self-study』で、英語に触れる手立てとして、英語で映画や音楽を聞くことなどが紹介されている。辞書の使い方について、第1学年で英和辞書・和英辞書の活用の仕方が紹介されている。追加の表現をまとめた一覧『Word Bank』が、会話表現活動の右ページに設けられるとともに、巻末の『いろいろな単語』で、カテゴリ別の語句などが掲載されている。
教出	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、学び方のコツなどをまとめた『How to Study』で、家庭学習による復習の仕方、授業以外での英語力の高め方、『シャドーイング』という練習方法などが紹介されている。辞書の使い方について、各学年の巻末で3回に分けて紹介されている。小学校で学習した表現をまとめた一覧『Word List①』が、第1学年の巻末にカテゴリ別で掲載されるとともに、第2・第3学年で、教科書内の活動と関連した単語や表現を記したカードが設けられている。
光村	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、学び方のコツなどをまとめた『Your Coach』で、将来に向けて、どのように英語を学び続けていくかなどが紹介されている。辞書の使い方について、第1学年で紹介されている。各学年の冒頭に見開きで『英語の学び方ガイド』が掲載されている。追加の表現をまとめた一覧『Active Words』が、会話練習の帯教材の次のページ以降に、イラストを添えたり、時系列で示したり、反意語を示したりして掲載されている。
啓林館	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、学び方のコツなどをまとめた『付録』で、英文を書くときのルール、言語の働き別の会話表現、英文の読み方のコツなどが紹介されている。辞書の使い方について、第1学年で紹介されている。第2・第3学年の各Unitの最後の『More Information』で、扱われたテーマに関連した追加情報が日本語で記されている。追加の表現をまとめた一覧『Tool Box』が、プロジェクト活動と同一のページ内に設けられるとともに、巻末の『Word Box』で、項目別に五十音順で掲載されている。

## 2 かながわ教育ビジョンとの関連

④ [思いやる力]他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる。	
(共生、豊かな心、いのちの大切さ、生命の尊厳、人権教育、道徳教育 など)	
東書	[思いやる力]の「人権教育」について、第1学年では、ケニアの病院で働く女性を取り上げた『Think Globally, Act Locally』などが掲載されている。 [思いやる力]の「人権教育」について、第2学年では、ユニバーサルデザインなどを取り上げた『Universal Design』などが掲載されている。 [思いやる力]の「人権教育」について、第3学年では、差別に対して非暴力で立ち向かったガンディーを取り上げた『A Legacy for Peace』などが掲載されている。
開隆堂	[思いやる力]の「人権教育」について、第1学年では、個人ができることやできないことについて取り上げた『タレントショーを開こう』などが掲載されている。 [思いやる力]の「人権教育」について、第2学年では、アメリカや南アフリカにおける人種差別反対運動を取り上げた『Live Life in True Harmony』などが掲載されている。 [思いやる力]の「人権教育」について、第3学年では、女子が教育を受ける権利を訴えたマララ・ユスフザイの活動を取り上げた『Malala's Voice for the Future』などが掲載されている。
三省堂	[思いやる力]の「人権教育」について、第1学年では、車いすバスケットボール選手本人のエッセイを取り上げた『Wheelchair Basketball』などが掲載されている。 [思いやる力]の「人権教育」について、第2学年では、オーストラリアの先住民族に対する配慮などを取り上げた『Uluru』などが掲載されている。 [思いやる力]の「人権教育」について、第3学年では、公民権運動に関するローザ・パークスやマーチン・ルーサー・キング・ジュニアの活動を取り上げた『I Have a Dream』などが掲載されている。
教出	[思いやる力]の「人権教育」について、第1学年では、好きなものなどが異なる人物同士を紹介する場面を取り上げた『My Favorite Person』などが掲載されている。 [思いやる力]の「人権教育」について、第2学年では、盲導犬と人との関わりなどを取り上げた『Service Dogs』などが掲載されている。 [思いやる力]の「人権教育」について、第3学年では、貧困や強制労働に苦しむ子どもたちのことを知り、12歳で行動を起こした少年の活動を取り上げた『Free the Children』などが掲載されている。
光村	[思いやる力]の「人権教育」について、第1学年では、6人のプロフィールから共通点・相違点について読み取る『自己紹介で共通点・相違点を見つけよう』などが掲載されている。 [思いやる力]の「人権教育」について、第2学年では、困った状況の中で友人に相談したり、助け合ったりする場面を取り上げた『Staging a Musical』などが掲載されている。 [思いやる力]の「人権教育」について、第3学年では、世界の現状や社会問題を『100人の村』に例え、全ての人が平等に扱われていない実態を取り上げた『How Do We Live?』などが掲載されている。
啓林館	[思いやる力]の「人権教育」について、第1学年では、登場人物が互いにできること・できないことについて話す場面を取り上げた『エミリーの家で』などが掲載されている。 [思いやる力]の「人権教育」について、第2学年では、キャラクターのアンパンマンが自分のものを分け与える場面を取り上げた『What is a Hero?』などが掲載されている。 [思いやる力]の「人権教育」について、第3学年では、『みんなにやさしい社会』に役立っていることを取り上げた『Society for All』などが掲載されている。



⑤ [たくましく生きる力] 自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる。	
(公共心、規範意識、責任感、国際化、情報化、食育、健康教育、コミュニケーション能力 など)	
東書	[たくましく生きる力]の「国際化」について、第1学年では、フィリピンで食べられているシニガンというスープやハロハロというデザートを取り上げた『A Speech about My Brother』などが掲載されている。 [たくましく生きる力]の「国際化」について、第2学年では、国内外の世界遺産を取り上げた『World Heritage Sites』などが掲載されている。 [たくましく生きる力]の「国際化」について、第3学年では、国際協力のキャンペーンによる国境を越えた助け合いを取り上げた『Beyond Borders』などが掲載されている。
開隆堂	[たくましく生きる力]の「国際化」について、第1学年では、書道や百人一首をアメリカ人の生徒に教える場面を取り上げた『Let's Enjoy Japanese Culture.』などが掲載されている。 [たくましく生きる力]の「国際化」について、第2学年では、国内外の路上の屋台で食べられているものごとを取り上げた『Taste of Culture』などが掲載されている。 [たくましく生きる力]の「国際化」について、第3学年では、日本の弁当やインドの弁当配達人について取り上げた『Bentos Are Interesting!』などが掲載されている。
三省堂	[たくましく生きる力]の「国際化」について、第1学年では、留学生が参加するイングリッシュキャンプでの体験を取り上げた『English Camp』などが掲載されている。 [たくましく生きる力]の「国際化」について、第2学年では、ニュージーランドから来る中学生たちの歓迎会について取り上げた『Things to Do in Japan』などが掲載されている。 [たくましく生きる力]の「国際化」について、第3学年では、フランスのパリで行われた日本文化を紹介するイベントを取り上げた『The World's Manga and Anime』などが掲載されている。
教出	[たくましく生きる力]の「国際化」について、第1学年では、オーストラリアの中学生とのビデオ通話の場面を取り上げた『School Life in Two Countries』などが掲載されている。 [たくましく生きる力]の「国際化」について、第2学年では、英語による落語を取り上げた『Rakugo in English』などが掲載されている。 [たくましく生きる力]の「国際化」について、第3学年では、NFL(全米フットボール連盟)の日本人トレーナーなどを取り上げた『Sports Legends』などが掲載されている。
光村	[たくましく生きる力]の「国際化」について、第1学年では、世界の挨拶や、中学生の生活の様子を取り上げた『世界の中学生』などが掲載されている。 [たくましく生きる力]の「国際化」について、第2学年では、大阪で包丁専門店を営むカナダ人を取り上げた『世界を舞台に働く人』などが掲載されている。 [たくましく生きる力]の「国際化」について、第3学年では、外国と日本の学校の違いについて取り上げた『School Life Around the World』などが掲載されている。
啓林館	[たくましく生きる力]の「国際化」について、第1学年では、海外からの転校生とふだんすることや好きなことについてのやり取りを取り上げた『海外からの転校生』などが掲載されている。 [たくましく生きる力]の「国際化」について、第2学年では、香港やハワイなどへの旅行を取り上げた『Traveling Overseas』などが掲載されている。 [たくましく生きる力]の「国際化」について、第3学年では、イスラム教徒のハラールフードなどを取り上げた『Food Cultures』などが掲載されている。
⑥ [社会とかかわる力] 社会とかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献する力を育てる。	
(生きること、働くことの大切さ、自然や人とのふれあい体験、地域貢献活動、ボランティア活動 など)	
東書	[社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、第1学年では、井戸掘りの国際協力ボランティアを取り上げた『Think Globally, Act Locally』などが掲載されている。 [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、第2学年では、自分の町のおすすめの場所を紹介する活動について取り上げた『My Favorite Place in Our Town』などが掲載されている。 [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、第3学年では、町で取り組んでいる防災面での外国人支援を取り上げた『Be Prepared and Work Together』などが掲載されている。
開隆堂	[社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、第1学年では、登校中の『子ども安全パトロール』を取り上げた『Junior Safety Patrol』などが掲載されている。 [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、第2学年では、職業体験を受け入れたスーパーマーケットや病院などを取り上げた『Work Experience』などが掲載されている。 [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、第3学年では、自分の住む町をPRする活動を取り上げた『あなたの町を世界にPRしよう』などが掲載されている。
三省堂	[社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、第1学年では、富士山の登山道の美化活動などを取り上げた『Green Festival』などが掲載されている。 [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、第2学年では、農場での職場体験プログラムなどを取り上げた『My Dream』などが掲載されている。 [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、第3学年では、国際交流イベントで町や地域の文化を紹介する活動を取り上げた『国際交流イベントに出展しよう』などが掲載されている。
教出	[社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、第1学年では、北海道の旭山動物園での取組を取り上げた『Holiday in Hokkaido』などが掲載されている。 [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、第2学年では、書店や保育園で職場体験に取り組む様子を取り上げた『Workplace Experience』などが掲載されている。 [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、第3学年では、ワシなどの猛禽類の保護活動などを取り上げた『The Eagles in Hokkaido』などが掲載されている。
光村	[社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、第1学年では、地元の夏祭りを楽しむ場面などを取り上げた『Enjoy the Summer』などが掲載されている。 [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、第2学年では、小学校や水族館での職場体験を取り上げた『Work Experience』などが掲載されている。 [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、第3学年では、海岸を掃除する活動について書かれたポスターの情報を読み取る活動を取り上げた『ポスター』などが掲載されている。
啓林館	[社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、第1学年では、山形県でサクランボ農家を営む祖父の姿を取り上げた『ぼくのおじいさん』などが掲載されている。 [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、第2学年では、海外で働く日本人について取り上げた『Working Overseas』などが掲載されている。 [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、第3学年では、「ゆるキャラ」を通じた地域の活性化などを取り上げた『Lively Towns in Japan』などが掲載されている。

3 内容と構成

○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。

⑦ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮

東書	主体的・対話的で深い学びについて、学習を見直し振り返る場面として、巻頭の目次が『学習の見直しを立てよう』のタイトルで示され、巻末に『学習を振り返ろう』のタイトルで学年別のCAN-DOリスト形式の学習到達目標が示されている。第1学年には小学校の学習到達目標、第3学年には高校の学習到達目標も示されている。各Unitの最初に『GOAL』として目標が示され、最後に『CHECK』としてその目標を達成したかどうかの振り返りが示されている。グループなどで対話する場面として、互いに向いていると思う仕事を伝え合い、そのアドバイスをもとに表現につなげる活動などが設定されている。生徒が考える場面として、『Think and Express Yourself』で、読み取った内容に関連した自分のことについて表現する活動などが設定されている。
開隆堂	主体的・対話的で深い学びについて、学習を見直し振り返る場面として、巻頭に前後の学年も含めた全体の構成が示され、巻末の『英語で「できるようになったこと」リスト』で領域別の目標が示されている。それぞれの目標について、自己評価する項目が示されている。各Programの最初に3観点別の目標が示され、後のプロジェクト活動の目標と連動している。グループなどで対話する場面として、アイデアを出し合って英語でチャットをする活動などが設定されている。生徒が考える場面として、読み取った内容から自由に答えを推測する推論発問などが設定されている。
三省堂	主体的・対話的で深い学びについて、学習を見直し振り返る場面として、巻頭に『この教科書のしくみ』が示され、巻末の『What Can I Do?』で領域別の目標が示されている。それぞれの目標について、教科書内で扱った主なパートの振り返り箇所が示されている。各Lessonの最初に、扱われる新出文法事項に関する英文や活動の目標が示されている。グループなどで対話する場面として、提案するテーマについて話し合う活動などが設定されている。生徒が考える場面として、モデルとなるスピーチ原稿と書き加えられたメモを見て工夫している点を考える活動などが設定されている。
教出	主体的・対話的で深い学びについて、学習を見直し振り返る場面として、巻頭の『この教科書で英語を学ぶみなさんへ』で全体の構成が示され、巻末の『Can-Do自己チェックリスト』で前後の学年も含めた領域別の目標が示されている。それぞれの目標について、顔の表情のアイコンで自己評価する項目が示されている。各Lessonの終わりに3観点別の振り返りの機会が設けられている。グループなどで対話する場面として、スピーチを聞いて感想を言う活動などが設定されている。生徒が考える場面として、『Think & Try!』で、読み取った内容に関連した表現活動が設定されている。
光村	主体的・対話的で深い学びについて、学習を見直し振り返る場面として、巻頭に学期ごとに区切られた全体構成が示され、巻末の『CAN-DO List』で学年の大きな1つの目標と領域別の目標が示されている。それぞれの目標は、学年が上がるにつれ、以前の学年の目標が併せて示されている。『CAN-DO List』と連動した目標を達成したかどうかを振り返るチェック項目が、各Unit末などに『ふり返り』として設定されている。グループなどで対話する場面として、留学生が楽しめる観光プランを考える活動などが設定されている。生徒が考える場面として、『About You』というアイコンで示された箇所に、自分のことに関連して表現する活動が設定されている。
啓林館	主体的・対話的で深い学びについて、学習を見直し振り返る場面として、巻頭の『この教科書の使い方』で全体の構成が示され、巻末の『Can-Doリスト』で第1学年のうちから中学校3年間を見通した領域別の目標が示されている。この目標は、中学校学習指導要領に示されている領域別の目標にほぼ文言が合わせられている。各Unitの最初に、パートごとの目標や扱われる文法事項が示されている。グループなどで対話する場面として、発表を聞いた後で発表者に質問する活動などが設定されている。生徒が考える場面として、まとまった文章を読み取り、内容に関連した自分の意見や考えを述べる『Read & Think』が設定されている。

⑧ 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮

(教科等横断的に学習を展開する上での工夫や配慮、中学校3年間や義務教育学校9年間の学びのつながりや系統性、基礎的な学習と発展的な学習との明確な区分けなど、生徒が学習を進めたり教員が指導計画を立てたりしやすいような工夫や配慮など)	
東書	カリキュラム・マネジメントについて、第1学年では、国語科と関連して、物語の文章構成を取り上げた『Learning LITERATURE in English』が掲載されている。 カリキュラム・マネジメントについて、第2学年では、技術・家庭科(家庭分野)と関連して、食品表示を取り上げた『Learning HOME ECONOMICS in English』が掲載されている。 カリキュラム・マネジメントについて、第3学年では、理科と関連して、食物連鎖を取り上げた『Learning SCIENCE in English』が掲載されている。 また、各学年とも、他教科と関連する内容は鎖の形の同一のアイコンで示されている。
開隆堂	カリキュラム・マネジメントについて、第1学年では、国語科と関連して、書道や百人一首を取り上げた『Let's Enjoy Japanese Culture.』が掲載されている。 カリキュラム・マネジメントについて、第2学年では、技術・家庭科(技術分野)と関連して、カワセミを模して作られた新幹線の形状を取り上げた『High-Tech Nature』が掲載されている。 カリキュラム・マネジメントについて、第3学年では、保健体育科と関連して、睡眠時間と健康の関係を取り上げた『Good Night. Sleep Tight.』が掲載されている。 また、「ごんぎつね」など、複数の小学校の国語科で扱われた物語が、英文で掲載されている。
三省堂	カリキュラム・マネジメントについて、第1学年では、保健体育科と関連して、車いすバスケットボールを取り上げた『Wheelchair Basketball』が掲載されている。 カリキュラム・マネジメントについて、第2学年では、理科と関連して、霧の発生の仕組みを取り上げた『Every Drop Counts』が掲載されている。 カリキュラム・マネジメントについて、第3学年では、歴史・公民的分野と関連して、アメリカの公民権運動を取り上げた『I Have a Dream』が掲載されている。 また、伝統文化、異文化理解、自然理解など、複数の教科と関連した題材が設定されている。
教出	カリキュラム・マネジメントについて、第1学年では、地理的分野と関連して、北海道の自然環境を取り上げた『Holiday in Hokkaido』が掲載されている。 カリキュラム・マネジメントについて、第2学年では、理科と関連して、ペンギンの生態を取り上げた『Six Amazing Things about Penguins』が掲載されている。 カリキュラム・マネジメントについて、第3学年では、技術・家庭科(技術分野)と関連して、インターネットのニュースや広告動画を取り上げた『News and Ads』が掲載されている。 また、教科書内の各単元と並行して扱う教材として、『Activities Plus』が設定されている。
光村	カリキュラム・マネジメントについて、第1学年では、地理的分野と関連して、日本と世界の時差を取り上げた『世界の時刻』が掲載されている。 カリキュラム・マネジメントについて、第2学年では、美術科と関連して、葛飾北斎『富嶽三十六景』を取り上げた『音声ガイド』が掲載されている。 カリキュラム・マネジメントについて、第3学年では、理科と関連して、絶滅危惧種の現状とその原因を取り上げた『Living With Animals』が掲載されている。 また、『Story Retelling』『Let's Talk!』などの帯教材が設定されている。
啓林館	カリキュラム・マネジメントについて、第1学年では、数学科と関連して、英語の物語として扱われた数学パズルを取り上げた『River Crossing Puzzle』が掲載されている。 カリキュラム・マネジメントについて、第2学年では、地理的分野と関連して、国土面積などの国別ランキングを取り上げた『Let's Compare』が掲載されている。 カリキュラム・マネジメントについて、第3学年では、歴史的分野と関連して、歴史上の人物について関連した出来事を取り上げた『What Can Photos Tell?』が掲載されている。 また、部活動、火災訓練、修学旅行などの学校行事と関連する題材が設定されている。

○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。

⑨ 言語能力の確実な育成	
東書	言語能力の育成について、第1学年では、登山の計画において、地図や表をもとにテキストメッセージでやり取りしている様子を読み取り、結論を導く『Let's Climb Mt. Fuji』が掲載されている。 言語能力の育成について、第2学年では、コミュニケーションを図るうえで、相手のもっている知識に合わせて話したり書いたりする配慮を示した『Point of View』が掲載されている。 言語能力の育成について、第3学年では、ディベートにおいて、自分の意見を主張する手立てなどを示した『Word Room』が掲載されている。 また、各学年とも、国語科との関連を図り、物語の読み方や、英語俳句を書く活動などが示されている。
開隆堂	言語能力の育成について、第1学年では、導入・展開・まとめの順で話を構成することなどを示した『話の組み立て方を考えよう』が掲載されている。 言語能力の育成について、第2学年では、会話を続け、深めることにおいて、あいづちや疑問詞を使った疑問文を組み合わせるとよいといった具体例などを示した『会話をつなげ、深めよう』が掲載されている。 言語能力の育成について、第3学年では、言いたいことをどう表現したらいいかわからないときの手立てとして、自分や相手の知っている簡単な表現に言い換えることなどを示した『簡単な表現で言いかえよう』が掲載されている。 また、各学年とも、ページ内にある『Try』で、即興的なやり取りを促す題材が示されている。
三省堂	言語能力の育成について、第1学年では、内容を考えて整理する手立てなどについて示した『学校生活や行事を紹介するメールを書く』が掲載されている。 言語能力の育成について、第2学年では、ディスカッションで意見をまとめ、参加者全員が役割を意識することなどを示した『ディスカッションをしよう』が掲載されている。 言語能力の育成について、第3学年では、イベントのチラシから必要な情報を読み取り、そのイベントについての質問に答える題材などを示した『イベントのチラシ』が掲載されている。 また、各学年とも、表現を行う活動で『キャラクターのひとりごと』が示され、表現をまとめるに至る思考過程について示されている。
教出	言語能力の育成について、第1学年では、代名詞に注意して読み、文章を正しく読み取ることなどを示した『Tips for Reading』が掲載されている。 言語能力の育成について、第2学年では、書くことを整理するコツとして、すぐに文章を書き始めないで、マッピング図を描いて書くことを整理することを示した『Tips for Writing』が掲載されている。 言語能力の育成について、第3学年では、読み手にわかりやすい文章を書くことにおいて、ジャンルなどが大きなことから細かいことの順に書くことなどを示した『Tips for Writing』が掲載されている。 また、各学年とも、教科書内の各単元と並行して扱う『Activities Plus』で、継続的な会話練習が設定されている。
光村	言語能力の育成について、第1学年では、自己表現を読み取る目的を示した『自己紹介で共通点・相違点を見つけよう』が掲載されている。 言語能力の育成について、第2学年では、留学生に合う自分の町の観光プランを作ることに際して、自己紹介から相手の知りたいことを読み取り、その内容を基に考える活動を取り上げた『わが町観光プランをおすすめしよう』が掲載されている。 言語能力の育成について、第3学年では、ある場所の未来の予想をすることにおいて、同じ場所の過去と現在の写真について、相違点をあげるグループ活動を取り上げた『「過去」と「現在」の相違点を挙げよう』が掲載されている。 また、各学年とも、教科書本文の見開きのページに、「聞く」「読む」「話す」「書く」の技能別の活動が一つずつ設けられている。
啓林館	言語能力の育成について、第1学年では、例を参考に表現したいことを選び、それを基に原稿を書くことなどを示した『自己紹介をしよう』が掲載されている。 言語能力の育成について、第2学年では、別の人のやり取りを聞き、意見のまとめ方の練習をする活動を取り上げた『自分の意見を言おう』が掲載されている。 言語能力の育成について、第3学年では、ディスカッションをする際、モデル対話の人物の意見を読み取り、自分の表現につなげる活動を取り上げた『ディスカッションをしよう』が掲載されている。 また、各学年とも、テーマに合うスピーチを段階に沿って作成し、発表する構成の『Express Yourself』が掲載されている。
⑩ 伝統や文化に関する教育の充実	
東書	伝統や文化に関する教育の充実について、第1学年では、日本の伝統工芸である陶芸や伝統文化である落語に取り組む外国人を取り上げた『Foreign Artists in Japan』が掲載されている。 伝統や文化に関する教育の充実について、第2学年では、カレーを例にあげ、外国の食文化が日本に取り入れられて独自に発達したことを取り上げた『Food Travels around the World』が掲載されている。 伝統や文化に関する教育の充実について、第3学年では、『Kawaii』など、日本語がそのまま外国語として受け入れられた例を取り上げた『Discover Japan』が掲載されている。
開隆堂	伝統や文化に関する教育の充実について、第1学年では、大掃除やおせち料理といった日本の年末年始の風習に外国人一家が取り組む様子を取り上げた『The Year-End Events』が掲載されている。 伝統や文化に関する教育の充実について、第2学年では、アニメやマンガといった日本のポップカルチャーを取り上げた『A Gateway to Japan』が掲載されている。 伝統や文化に関する教育の充実について、第3学年では、弁当文化から派生したキャラ弁や駅弁のを取り上げた『Bentos Are Interesting』が掲載されている。
三省堂	伝統や文化に関する教育の充実について、第1学年では、日本での思い出として風呂敷を買ったり花火を見たりした話などを取り上げた『Discover Japan』が掲載されている。 伝統や文化に関する教育の充実について、第2学年では、海外で活動する英語落語家の大島希巳江の取組などを取り上げた『Rakugo Goes Overseas』が掲載されている。 伝統や文化に関する教育の充実について、第3学年では、フランスで行われたマンガやアニメなどを紹介するイベントでの体験などを取り上げた『The World's Manga and Anime』が掲載されている。
教出	伝統や文化に関する教育の充実について、第1学年では、オーストラリアの生徒に日本の学校の様子を説明する場面を取り上げた『School Life in Two Countries』が掲載されている。 伝統や文化に関する教育の充実について、第2学年では、先祖を弔う海外の風習と日本の盆踊りとの類似点や相違点を取り上げた『How to Celebrate Halloween』が掲載されている。 伝統や文化に関する教育の充実について、第3学年では、『umami』という言葉が英語となり海外で知られていることなどを取り上げた『Washoku, or Japanese Cuisine』が掲載されている。
光村	伝統や文化に関する教育の充実について、第1学年では、除夜の鐘・年越しそば・初詣・おみくじなどの日本の年末年始の行事を取り上げた『New Year Holidays in Japan』が掲載されている。 伝統や文化に関する教育の充実について、第2学年では、海外で広がる絵文字文化などを取り上げた『Emojis - From Japan to the World』が掲載されている。 伝統や文化に関する教育の充実について、第3学年では、帰国する外国人生徒が体験したいこととして挙げた、着物の着付け・折り紙などについての会話を聞き取る活動を取り上げた『Tina's Speech』が掲載されている。
啓林館	伝統や文化に関する教育の充実について、第1学年では、日本最古のマンガといわれている鳥獣戯画などを取り上げた『日本のマンガ文化』が掲載されている。 伝統や文化に関する教育の充実について、第2学年では、秋田竿灯祭りや長岡花火大会ができた背景などを取り上げた『Festivals Have Meanings』が掲載されている。 伝統や文化に関する教育の充実について、第3学年では、生卵を食べたりはしを使用したりする日本の食文化などを取り上げた『Food Cultures』が掲載されている。

⑪ 体験活動の充実	
東書	体験活動の充実について、第1学年では、スクールキャンプなどの体験を振り返る活動を取り上げた『My Favorite Event This Year』が掲載されている。 体験活動の充実について、第2学年では、翻訳会社での職業体験に取り組む様子を取り上げた『My Future Job』が掲載されている。 体験活動の充実について、第3学年では、日本にいる外国人を対象とした避難訓練を取り上げた『Be Prepared and Work Together』が掲載されている。
開隆堂	体験活動の充実について、第1学年では、ハンバーガーショップでの注文を通じた役割演技を取り上げた『ハンバーガーショップへ行こう』が掲載されている。 体験活動の充実について、第2学年では、スーパーマーケット・病院・郵便局での職場体験の様子を取り上げた『Work Experience』が掲載されている。 体験活動の充実について、第3学年では、会見役と記者役に分かれてスピーチやそれに関する質問をする活動を取り上げた『記者会見を開こう』が掲載されている。
三省堂	体験活動の充実について、第1学年では、ボランティア活動についてのスピーチを聞きに行く場面を取り上げた『Green Festival』が掲載されている。 体験活動の充実について、第2学年では、職場体験プログラムや実際に働く人の体験談を取り上げた『My Dream』が掲載されている。 体験活動の充実について、第3学年では、広島への修学旅行を通じた平和体験学習を取り上げた『The Story of Sadako』が掲載されている。
教出	体験活動の充実について、第1学年では、ビデオ通話で、海外の中学生と交流する場面を取り上げた『School Life in Two Countries』が掲載されている。 体験活動の充実について、第2学年では、『サンタラン』という入院している子どもたちを支援するチャリティイベントを取り上げた『The Gift of Giving』が掲載されている。 体験活動の充実について、第3学年では、カナダでのホームステイ体験を取り上げた『Aya Visits Canada』が掲載されている。
光村	体験活動の充実について、第1学年では、外国のカフェで注文をするやり取りの役割演技を取り上げた『カフェ』が掲載されている。 体験活動の充実について、第2学年では、小学校や水族館での職場体験の様子を取り上げた『Work Experience』が掲載されている。 体験活動の充実について、第3学年では、校内での合唱コンクールを取り上げた『The Chorus Contest』が掲載されている。
啓林館	体験活動の充実について、第1学年では、遠足で訪れた美術館で「だまし絵」を見る場面を取り上げた『美術館で』が掲載されている。 体験活動の充実について、第2学年では、地震発生時の行動、防災用品、学校の火災訓練を取り上げた『In Case of Emergency』が掲載されている。 体験活動の充実について、第3学年では、広島への修学旅行を通じた平和体験学習を取り上げた『Passing Down Memories』が掲載されている。
⑫ 学校段階間の円滑な接続	
東書	学校段階間の円滑な接続について、小学校の既習事項を確認するページがあり、聞くことから導入されている。全編を通し、小学校の既習事項が『小』のアイコンで明示されている。 高校への接続について、第3学年の巻末に示した『CAN-DOリスト』には、高校の領域別の目標が示されている。読む分量の増加に合わせて、本編中の読み物教材の使用語数が段階的に増やされている。図やイラストの内容を表現する活動などを取り上げた『いざというとき役立つ標識』や、即興的な対話につながる課題を取り上げた『Plus One』などが掲載されている。
開隆堂	学校段階間の円滑な接続について、小学校の既習事項を確認するページがあり、小学校で学んだ表現などが扱われている。全編を通し、場面シラバスから導入されている。 高校への接続について、通常からまとまりのある文章を読む活動が繰り返され、学年が上がるにつれ語数が増やされている。第3学年の最後には1,000語超の物語文を取り上げた『Further Reading』が掲載されている。
三省堂	学校段階間の円滑な接続について、小学校の既習事項を確認するページがあり、小学校での学びを振り返り、文構造などが整理されている。小学校の既習語から発信語彙が抽出され、再掲されている。 高校への接続について、補充語彙リストの『Word Bank』が設定されている。まとまりのある文章を読む活動の語数が段階的に増やされている。自分から英語に触れる手立てを示した『For Self-study』が掲載されている。
教出	学校段階間の円滑な接続について、小学校の既習事項を確認するページがあり、イラストやゲームでの復習場面が設定されている。小学校で扱ったコミュニケーション活動が扱われている。 高校への接続について、通常からスパイラルに活動を積み重ね、段階的に扱う語数や表現が増やされている。第3学年の最後には、4つの読み物教材を取り上げた『Further Reading』が掲載されている。
光村	学校段階間の円滑な接続について、小学校の既習事項を確認するページがあり、「聞く」「話す」「書く」の順に活動が設定されている。帯活動で発音とつづりのルールを学ぶ教材が扱われている。 高校への接続について、通常から読む機会と読む量が段階的に増やされている。第3学年では、文章を読み比べ、自分の意見を表現する活動が扱われている。英語学習を続けていく手立てを示した『Your Coach』が掲載されている。
啓林館	学校段階間の円滑な接続について、小学校の既習事項を確認するページがあり、耳から学習した英語を文字と結び付ける内容で構成され、他ページと比べイラストが大きく使用されている。 高校への接続について、通常から段階的に語数を増やしながら読む活動が扱われている。第3学年の最後に、ディスカッションや長文の作文を取り上げた『Further Study』が掲載されている。補充の読み物教材も2点扱われている。

⑬ 情報活用能力の育成	
東書	情報活用能力の育成について、第1学年では、ニュージーランドの姉妹校とインターネット電話をする場面を取り上げた『Friends in New Zealand』が掲載されている。 情報活用能力の育成について、第2学年では、情報技術の活用の仕方を考える活動を取り上げた『Learning TECHNOLOGY in English』が掲載されている。 情報活用能力の育成について、第3学年では、宿題について友人とテキストメッセージを送り合う場面を取り上げた『Haiku in English』が掲載されている。
開隆堂	情報活用能力の育成について、第1学年では、撮影した写真について説明する活動を取り上げた『私が選んだ1枚』が掲載されている。 情報活用能力の育成について、第2学年では、本やインターネットでの情報収集のアドバイスを取り上げた『こんな人になりたい』が掲載されている。 情報活用能力の育成について、第3学年では、AI技術の可能性と今後の課題点などを取り上げた『Is AI a Friend or an Enemy?』が掲載されている。
三省堂	情報活用能力の育成について、第1学年では、写真を添えて学校生活を紹介するメールを書く活動を取り上げた『学校生活や行事を紹介するメールを書こう』が掲載されている。 情報活用能力の育成について、第2学年では、レストランのメニュー情報から誰にどの食べ物をすすめるのかを考える活動を取り上げた『レストランのメニュー』が掲載されている。 情報活用能力の育成について、第3学年では、イベントの募集案内からアピールする内容を考えて発表する活動を取り上げた『国際交流イベントに出展しよう』が掲載されている。
教出	情報活用能力の育成について、第1学年では、インターネットのブログとそれについてのメッセージのやり取りの場面などを取り上げた『Our Summer Stories』が掲載されている。 情報活用能力の育成について、第2学年では、電子メールで書き手の意向を理解するコツを取り上げた『Tips for Reading』が掲載されている。 情報活用能力の育成について、第3学年では、インターネットのニュースやコマーシャル動画を取り上げた『News and Ads』が掲載されている。
光村	情報活用能力の育成について、第1学年では、インターネットの記事から必要な情報を抽出する活動を取り上げた『ウェブサイト』が掲載されている。 情報活用能力の育成について、第2学年では、世界中のテキストメッセージで使われる絵文字のやり取りの留意点などを取り上げた『Emojis - From Japan to the World』が掲載されている。 情報活用能力の育成について、第3学年では、AI技術による翻訳機が存在が外国語の習得に与える影響などを取り上げた『AI Technology and Language』が掲載されている。
啓林館	情報活用能力の育成について、第1学年では、まとめたメモを基に紹介文を書く活動などを取り上げた『友だちにインタビューしよう』が掲載されている。 情報活用能力の育成について、第2学年では、海外の学校のホームページの情報をヒントに自分の学校の紹介文を発表する活動を取り上げた『学校を紹介しよう』が掲載されている。 情報活用能力の育成について、第3学年では、ディスカッションを行ううえで情報を整理して意見をまとめる活動などを取り上げた『ディスカッションをしよう』が掲載されている。
⑭ 生徒の学習上の困難さに応じた工夫	
東書	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、内容理解などの補助として、領域ごとの活動内容を説明する動物キャラクターが設定され、その吹き出しで活動のヒントが掲載されている。英語の問いに対する回答例、海外の駅名に併記されたカタカナ、英単語の意味に対応したイラストが用意されている。学習活動などの補助として、読み物教材に限らず、まとまりのある文章に使用単語数が併記されている。
開隆堂	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、内容理解などの補助として、マンガ形式による場面理解、英単語の意味に対応した写真、形容詞を視覚的に理解するイラスト、目標文の一覧とその日本語訳の併記、表面にイラスト・裏面に関連する英語を記した『アクションカード』が用意されている。学習活動などの補助として、ページ番号付近の単元の目標番号を示すアイコン、音読回数（5回分）のチェック欄が設けられている。
三省堂	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、内容理解などの補助として、『Drill』内にある英語と関連したイラスト、新しく登場するキャラクターの人物紹介欄、言語活動の設定の記入欄、聞き取り教材『Take Action! Listen』で扱われた英文の原稿（巻末の『Audio Scripts』）、思考過程を明示するキャラクターの『ひとりごと』が用意されている。学習活動などの補助として、読み物教材の使用語数や段落番号が併記されている。
教出	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、内容理解などの補助として、各課で扱う文法事項について示した目次内の囲み、過去の学年のものも含めた日本語訳付きの『重要構文復習リスト』、ものや人などを説明するゲームに使用する絵カードが用意されている。学習活動などの補助として、音読回数（10回分）のチェック欄、教科書内に朱書きされた内容を隠すマスキングシートが用意されている。
光村	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、内容理解などの補助として、教科書が全編通してストーリー化されていたり、語句の意味に対応した写真が用意されたりしている。学習活動などの補助として、音読のやり方の指示がアイコンで示されていたり、読み物教材の使用語数が併記されたりしている。他ページと比べて帯教材『Let's Talk!』の紙質や大きさを変え、すぐ後に並行して使用する『Active Words』の欄が設けられている。
啓林館	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、内容理解などの補助として、各Unitで扱われたテーマに関する日本語コラム『More Information』、語句の意味に対応したイラスト、日本語訳付きの『基本文のまとめ』、英語の文字の発音の仕方の説明、赤いボールの位置や動きで示された前置詞のイメージ図が用意されている。学習活動などの補助として、読み物教材の使用語数が併記されている。

⑮ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	
東書	文法事項について、小学校で扱ったbe動詞、一般動詞が並列に導入されている。各学年とも、基本的な構成は、①写真などから場面などを想像するリスニングで導入 ②教科書本文の概要把握 ③基本文をもとにした練習活動 ④『Mini Activity』で各技能の習得を図る ⑤『Read and Think (第2・3学年)』でまとまった文章を3段階のステップ(概要把握、詳細理解、表現につなげる)で読む ⑥領域統合型の『Unit Activity』で成果を確認 ⑦複数の単元のまとめとして行う領域統合型の『Stage Activity』などで設定されている。また、各技能別に特化した活動、他教科との技能連携題材、読み物教材などが設定されている。
開隆堂	文法事項について、小学校で扱ったbe動詞、一般動詞が段階的に導入されるとともに、現在完了形が第2学年の終わりに導入されている。各学年とも、基本的な構成は、①写真やリスニングで題材への興味付けを行い、学習の見通しを立てる ②マンガ形式の短い対話で基礎・基本の習得を図る ③教科書本文の題材内容について考える ④自分の言葉で本文をリテリングする(第1学年Program 9から設定) ⑤学んだ表現をもとに即興で自己表現する ⑥複数の単元のまとめとして行う領域統合型の活動を行う などで設定されている。また、ペアによるスモールトーク、表現するうえでの技能の紹介、語彙力の増強活動、技能別のコミュニケーション活動、読み物教材などが設定されている。
三省堂	文法事項について、小学校で扱ったbe動詞、一般動詞が並列に導入されるとともに、現在完了形が第2学年の終わりに導入されている。各学年とも、基本的な構成は、①学ぶ内容への動機付けをし、学習の見通しを立てる ②教科書本文の概要を把握する ③基本文を確認し、文法事項や文構造を理解する ④基本文の練習活動を行う ⑤聞く活動から始める技能別の活動を行う ⑥まとまりのある英文を3段階のステップ(背景知識活性化、繰り返し読む、発信)で読み取る ⑦目的・場面・状況に応じてまとまりのある文章を書く ⑧目的・場面・状況に応じて発表する ⑨複数の単元のまとめとして、領域統合的な活動を行う などで設定されている。また、聞き取り活動、やり取り活動、読み物教材などが設定されている。
教出	文法事項について、小学校で扱ったbe動詞と一般動詞が並列に導入されている。各学年とも、基本的な構成は、①教科書本文ごとの目標を確認 ②教科書本文の内容理解 ③基本文の確認 ④基本文を用いた練習活動 ⑤まとまった内容の振り返りやタスク活動 ⑥文法事項や文構造の整理 ⑦複数単元のまとめとしての領域統合型の課題解決活動 などで設定されている。また、並行して帯活動で行うペアによる即興でのチャットやスピーチ、言語の使用場面に応じた活動、技能を高めるコツの紹介、読み物教材、英語の勉強の仕方についてのアドバイスなどが設定されている。
光村	文法事項について、小学校で扱ったbe動詞、一般動詞が並列に導入されている。各学年とも、構成は基本的にストーリー仕立てで、①目標の確認とストーリーの予想 ②教科書本文を理解しながら音読練習 ③本文中で基本文や語彙を確認 ④目的や場面に沿った練習活動 ⑤基本文のルールなどの再確認 ⑥アウトプットと振り返り活動 ⑦複数単元のまとめとして行う領域統合型の言語活動 などで設定されている。また、並行して帯教材で扱うリテリング活動、即興でのやり取り活動、領域別の練習教材、国際理解を深める教材、読み物教材などが設定されている。
啓林館	文法事項について、小学校で扱ったbe動詞、一般動詞が段階的に導入されている。各学年とも、基本的な構成は、①テーマに沿った目標の確認 ②教科書本文の概要理解 ③新出文法や新出語句の確認 ④音声での新出文法の確認 ⑤新出文法の練習や表現活動 ⑥テーマに沿ったまとまった文章の読み取り(概要理解、要約、内容について考える) ⑦テーマに沿った発表活動 ⑧背景知識の補足資料 ⑨複数単元のまとめとして行う領域統合型の活動 などで設定されている。また、新出文法の振り返り、「話す」「聞く」「読む」の各技能の学習、追加のディスカッション・ライティング活動(第3学年)、追加の読み物教材(第3学年)などが設定されている。
⑯ 「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」などのコミュニケーションを図る資質・能力を総合的に育成できるよう、実際の言語の使用場面や言語の働き等に十分配慮した題材を取り上げるなど、工夫や配慮がなされているか。	
東書	言語の使用場面について、地域のおすすめの場所を紹介する場面を取り上げた『My Favorite Place in Our Town』などが掲載されている。この活動は、どのようなおすすめを紹介してほしいのかを「聞くこと」から始め、自分で考えたおすすめのことを「書くこと」「話すこと[やり取り]」をし、グループのメンバーが考えた内容を「読むこと」を行い、「話すこと[発表]」で紹介するという流れで構成されている。この活動における言語の働きとして、「聞き直す」「褒める」「説明する」「意見を言う」「質問する」などが取り上げられている。
開隆堂	言語の使用場面について、他人にあまり知られていない自分のことを伝える自己紹介活動の場面を取り上げた『あなたの知らない私』などが掲載されている。この活動は、モデルスピーチを「聞くこと」「読むこと」から始め、自分のスピーチのアイデアについて「話すこと[やり取り]」「書くこと」を行い、マッピングなどで自分の考えを整理し、即興のスピーチを繰り返していく中で原稿をまとめ、「話すこと[発表]」につなぐという流れで構成されている。この活動における言語の働きとして、「繰り返す」「礼を言う」「発表する」「意見を言う」「質問する」などが取り上げられている。
三省堂	言語の使用場面について、将来の夢がテーマのスピーチコンテストで発表する場面を取り上げた『将来の夢を紹介しよう』などが掲載されている。この活動は、モデルスピーチを「聞くこと」から始め、ペアやグループで「話すこと[やり取り]」をして互いの興味を確認し、モデルスピーチを「読むこと」で文の構成などを参考にし、自分のスピーチを「書くこと」を行い、練習をして「話すこと[発表]」につなぐという流れで構成されている。この活動における言語の働きとして、「挨拶をする」「褒める」「報告する」「申し出る」「依頼する」などが取り上げられている。
教出	言語の使用場面として、紹介したい日本の文化の一つを選んで発表する場面を取り上げた『日本の文化を紹介しよう!』などが掲載されている。この活動は、日本の文化について紹介された英文を「読むこと」から始め、それを参考に紹介したい日本の文化を考えてメモを作り、メモを参考に「書くこと」を行う。その後グループ内で「話すこと[発表]」「聞くこと」を行い、互いに質問や感想を言い合う「話すこと[やり取り]」につなぐという流れで構成されている。この活動における言語の働きとして、「挨拶をする」「褒める」「描写する」「意見を言う」「質問する」などが取り上げられている。
光村	言語の使用場面として、ウェブサイトの掲示板の内容を参考に議論に参加する場面を取り上げた『学校に必要なものを考えて意見を伝えよう』などが掲載されている。この活動は、掲示板に書かれた意見を「読むこと」から始め、その内容についての賛否を考え、グループで議題を決め「話すこと[やり取り]」「聞くこと」を行い、「書くこと」で議論を整理する。最後に、そのテーマについての自分の賛否を「話すこと[発表]」につなぐという流れで構成されている。この活動における言語の働きとして、「相づちを打つ」「謝る」「説明する」「反対する」「質問する」などが取り上げられている。
啓林館	言語の使用場面について、有名人や歴史上の人物などに架空のインタビューをする場面を取り上げた『有名人にインタビューしよう』などが掲載されている。この活動は、ALTにインタビューしている対話「話すこと[やり取り]」からわかったことについてメモを取りながら「聞くこと」から始め、それを参考にインタビューしたい人物を決めて質問事項を「書くこと」を行う。ペアで作った原稿を「読むこと」などを通して練習し、「話すこと[発表]」につなぐという流れで構成されている。この活動における言語の働きとして、「相づちを打つ」「歓迎する」「報告する」「申し出る」「質問する」などが取り上げられている。

⑪ 小学校と関連した構成となるよう、小学校外国語活動及び外国語科で扱った音声や語彙、表現を取り上げるなど、工夫や配慮がなされているか。	
東書	小学校の既習事項を確認するページがあり、第1学年の冒頭の『Unit 0』で学習内容を振り返り、『Unit 1～5』で学習内容を文法面から整理している。単元全体の本文を聞くことから始め、小学校で慣れ親しんだ表現を使って話す活動を行い、中学校の活動につなげている。全編を通し、小学校の既習事項が『小』のアイコン、語彙については『小学校の単語』と囲みで明示されている。『Sounds and Letters』で、音と文字の関係を示した活動が設定されている。1年時の巻末のCan-Doリストは、小学校の目標も表記されている。
開隆堂	小学校の既習事項を確認するページがあり、第1学年の冒頭に『Get Ready』『Program 0』を設け、小学校で学んだ表現、アルファベット、つづり字と発音など文字に関わる内容が扱われている。全編を通し、マンガ形式の『Scenes』で、新出表現が場面シラバスから導入されている。ペアのスマールトークのコーナー『Try』が各課2～3か所設けられている。巻末資料として、カテゴリーごとにまとめられた『小学校で学んだ単語』が設定されている。目次では、小学校の時に学んだ表現が青字で表記されている。
三省堂	小学校の既習事項を確認するページがあり、第1学年の冒頭に『Hello, Everyone!』『Starter』が設けられるとともに、『Lesson 1～3』が接続単元として設定されている。この中で、小学校で学んだ言葉の使用場面、語句・表現、アルファベットと文字の読み方などを振り返り、文法事項や文構造が整理されている。小学校で扱った語の中から発信語彙が抽出され、再掲語として各ページの下に卵型のアイコンで表示されている。発音に関して、段階的に音声のルールが示されている。
教出	小学校の既習事項を確認するページがあり、第1学年の冒頭に『Springboard』が設けられ、イラストを使ったリスニングやゲーム、アルファベットや英語の書き方のルールなどを通して、小学校で慣れ親しんだ表現の復習場面が設定されている。『Activity』で、小学校で扱ったコミュニケーション活動が扱われている。『Activities Plus』の最初の内容は、小学校で学んだ日付や曜日の表現が扱われている。巻末の語彙リストを『Word List①』『Word List②』に分け、『Word List①』には小学校の既習語彙がグループ別に掲載されている。
光村	小学校の既習事項を確認するページがあり、第1学年の冒頭に『Let's Be Friends!』が設けられ、小学校で扱った語句と表現を用い、「聞くこと」から始め、「話すこと」、「書くこと」へとつなぐ流れが設定されている。その後の『Unit 3』までは、本文をマンガ形式のレイアウトにすることで扱う文字数が減らされている。帯活動の『Sounds and Letters』で、発音とつづりのルールを学ぶ教材が扱われている。巻末の『Word List』『基本本文のまとめ』では、小学校での既習事項に桜の花びらのマークが付けられている。
啓林館	小学校の既習事項を確認するページがあり、第1学年の冒頭に『Let's Start』が設けられ、小学校で学習した内容を聞くことから振り返り、耳から学習した英語を文字と結び付ける流れで構成されている。他ページと比べイラストが大きく使用されている。アルファベットの大文字と小文字を順番通りに書く練習をする『アルファベットを読み書きしよう』が設定されている。小学校の行事の英語の名称が、巻末の『Word Box』に記載されている。
⑫ 国際理解を深めることにつながるように、世界の人々や日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化、自然科学などを、生徒の発達の段階や興味・関心に即して効果的に取り上げるなど、工夫や配慮がなされているか。	
東書	国際理解を深めることについて、第1学年では、国際交流イベントを通して知る世界の水問題を取り上げた『Think Globally, Act Locally』が掲載されている。 国際理解を深めることについて、第2学年では、オーストラリアやイタリアなどの世界遺産を取り上げた『World Heritage Sites』が掲載されている。 国際理解を深めることについて、第3学年では、世界のエネルギー資源の可採年数や自給率などの諸問題を取り上げた『Power Your Future』が掲載されている。
開隆堂	国際理解を深めることについて、第1学年では、フィンランドの自然や気象などを取り上げた『A Trip to Finland』が掲載されている。 国際理解を深めることについて、第2学年では、エルトゥールル号の人命救助活動から始まったトルコと日本の友好関係を取り上げた『Friendship beyond Time and Borders』が掲載されている。 国際理解を深めることについて、第3学年では、チョコレート産業の隠された部分について取り上げた『The Story of Chocolate』が掲載されている。
三省堂	国際理解を深めることについて、第1学年では、家族紹介を通して知るイギリスの文化を取り上げた『My Family, My Hometown』が掲載されている。 国際理解を深めることについて、第2学年では、オーストラリアの世界遺産ウルルと先住民族の歴史を取り上げた『Uluru』が掲載されている。 国際理解を深めることについて、第3学年では、多言語国家であるインドの姿を取り上げた『Languages in India』が掲載されている。
教出	国際理解を深めることについて、第1学年では、世界に広がる地球温暖化やゴミ処理問題などの環境問題を取り上げた『Helping the Planet』が掲載されている。 国際理解を深めることについて、第2学年では、鎌倉の大仏、姫路城、グランドキャニオンなどの観光名所を取り上げた『Castles and Canyons』が掲載されている。 国際理解を深めることについて、第3学年では、カナダでのホームステイ体験を取り上げた『Aya Visits Canada』が掲載されている。
光村	国際理解を深めることについて、第1学年では、外国の物語であるイソップ童話の「ライオンとネズミ」を取り上げた『The Lion and the Mouse』が掲載されている。 国際理解を深めることについて、第2学年では、ニューヨーク旅行を通しての様々な観光地を取り上げた『Tour in New York City』が掲載されている。 国際理解を深めることについて、第3学年では、アラブ首長国連邦・イギリス・ルワンダのそれぞれの中学校生活を取り上げた『School Life Around the World』が掲載されている。
啓林館	国際理解を深めることについて、第1学年では、アメリカ人が感じる日本の不思議なものを取り上げた『学校で』が掲載されている。 国際理解を深めることについて、第2学年では、香港・ハワイ・シンガポール・ニュージーランドへの旅行を取り上げた『Traveling Overseas』が掲載されている。 国際理解を深めることについて、第3学年では、世界中で病気や災害に苦しむ子どもたちに折り紙を教えた盲目の日本人を取り上げた『Origami Ambassador』が掲載されている。

4 分量・装丁・表記等

⑱ 各内容の分量とその配分は適切であるか。	
東書	中心となる単元名を『Unit』と表記し、第1学年は『Unit 0～11』、第2学年は『Unit 0～7』、第3学年は『Unit 0～6』で構成されている。また、領域統合型のプロジェクト活動『Stage Activity』、聞き取り教材『Let's Listen』、会話教材『Let's Talk』、読み物教材『Let's Read』などが設定されている。
開隆堂	中心となる単元名を『Program』と表記し、第1学年は『Program 1～10』、第2学年は『Program 1～8』、第3学年は『Program 1～7』で構成されている。また、領域統合型のプロジェクト活動『Our Project』、技能別の活動『Power-Up』、読み物教材『Reading』などが設定されている。
三省堂	中心となる単元名を『Lesson』と表記し、第1学年は『Lesson 1～8』、第2学年は『Lesson 1～7』、第3学年は『Lesson 1～7』で構成されている。また、領域統合型のプロジェクト活動『Project』、技能別の活動『Take Action!』、読み物教材『Reading for Fun』『Reading for Information』などが設定されている。
教出	中心となる単元名を『Lesson』と表記し、第1学年は『Lesson 1～9』、第2学年は『Lesson 1～9』、第3学年は『Lesson 1～7』で構成されている。また、領域統合型のプロジェクト活動『Project』、技能別の活動『Tips』、読み物教材『Reading』などが設定されている。
光村	中心となる単元名を『Unit』と表記し、第1学年は『Unit 1～8』、第2学年は『Unit 1～8』、第3学年は『Unit 1～8』で構成されている。また、領域統合型のプロジェクト活動『You Can Do It!』、技能別の活動『Daily Life』、読み物教材『Let's Read』などが設定されている。
啓林館	中心となる単元名を『Unit』と表記し、第1学年は『Unit 1～10』、第2学年は『Unit 1～8』、第3学年は『Unit 1～6』で構成されている。また、領域統合型のプロジェクト活動『Project』、聞き取り教材『Let's Listen』、会話教材『Let's Talk』、読み物教材『Read and Think』などが設定されている。
⑳ 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。	
東書	判型はA4判が採用されている。
開隆堂	判型はA B判が採用されている。
三省堂	判型はA B判が採用されている。
教出	判型はA B判が採用されている。
光村	判型はA B判が採用されている。
啓林館	判型はA B判が採用されている。
㉑ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が読みやすく理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	
東書	『全ての生徒の色覚特性に適応するようにデザインしています。』『特別支援教育の観点から、読みやすさと書きやすさを追求した欧文用ユニバーサルデザインフォントの一部を採用しています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。
開隆堂	『カラーユニバーサルの視点から、色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの生徒が見やすくなるように配慮をしています。』『特別支援教育の観点から、書かれている内容が読み取りやすくなるように配慮をしています。』と表記されている。
三省堂	『この教科書はユニバーサルデザインに配慮しています。』『カラーユニバーサルデザインに配慮して編集しています。』『見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。
教出	『色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを使用しています。』と表記されている。
光村	『カラーユニバーサルデザインや特別支援教育の観点から、全てのページについて専門家による校閲を行っています。』『生徒の学習負担を軽減できるよう、小学校との接続期の英文には、書き文字との差異が少ない書体を独自に開発し、使用しています。』『日本語の文のうち、ふきだし内などの小さな文字には、見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザイン書体を採用しています。』と表記されている。
啓林館	『個人の特性にかかわらず、内容が伝わりやすい配色・デザインを用いました。』『メディア・ユニバーサル・デザイン協会の認証を申請中です。』と表記されている。



【参考】

① 題材に関連した神奈川県に関する文章や写真・グラフ等の掲載	
東書	なし
開隆堂	なし
三省堂	3年の50ページ 『Yokohama has many things to see.』の英文
教出	1年の76ページ 『中華街』の写真 2年の66ページ 『鎌倉の大仏』の写真 3年の19ページ 京急線、JR根岸線を使って横浜スタジアムまで案内する表現
光村	2年の117ページ 『神奈川冲浪裏』の写真
啓林館	3年の68ページ 『安藤百福発明記念館 横浜』にある安藤百福の像の写真

② URL、二次元コード等の掲載の有無						
発行者名	1年	2年	3年			
東書	有	有	有			
開隆堂	有	有	有			
三省堂	有	有	有			
教出	有	有	有			
光村	有	有	有			
啓林館	有	有	有			

③ 一冊ごとの重量(g)						
発行者名	冊数	1年	2年	3年		
東書	3	408	391	383		
開隆堂	3	381	370	354		
三省堂	3	359	343	356		
教出	3	368	368	363		
光村	3	383	380	381		
啓林館	3	328	344	313		